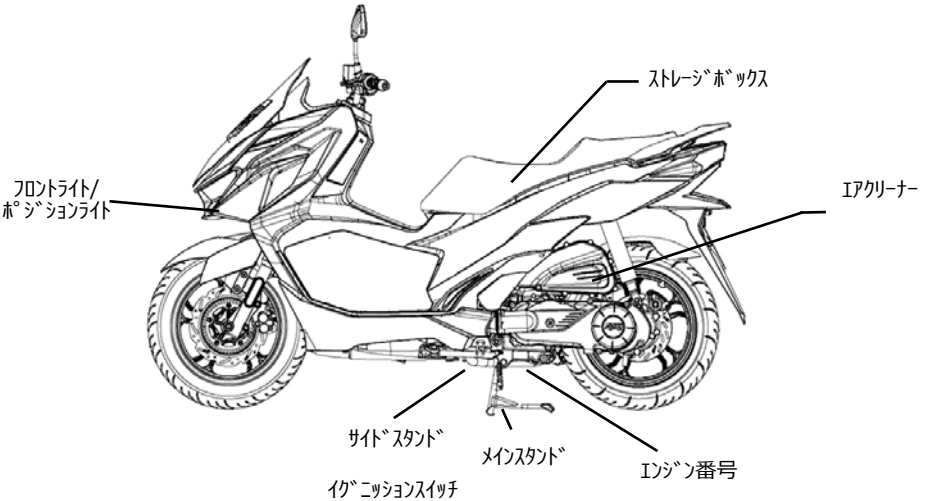
1.　目次

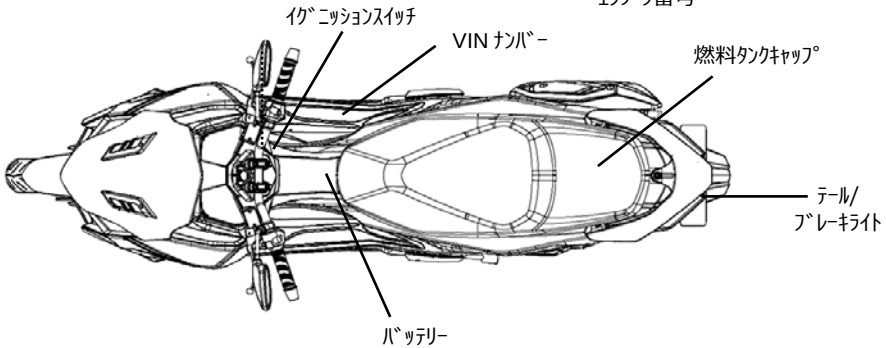
1. 目次 1
2. 各部の名称 3
3. お乗りになる前に 4
4. 安全運転 4
5. 運転 5
6. 純正部品の使用 5
7. 各部の使用方法 6
ゲージ 6
イグニッションスイッチの操作 8
ハンドルロックスイッチの操作 8
シートオープンスイッチの操作 8
ボタン類の操作 10
ストレージボックス 11
ヘルメットホルダー 11
燃料タンクキャップ 12
ブレーキ 12
エンジン始動時の重点事項と注意 13
8. 正しい発進の仕方 14
スロットルの操作 14
駐車の仕方 14
9. 乗車前点検とメンテナンス 15
日常点検 15
エンジンオイルの点検と交換 15
燃料の点検 16
トランスミッションオイルの点検と交換 16
ブレーキの遊び点検と調整 17
スロットルの遊びの調整 18
バッテリーの点検とメンテナンス 18
タイヤの点検 20
フロントショックアブソーバーの点検 20
ヒューズの点検と交換 21
ターンシグナルライトとホーンの点検 21
フロントとリアのライト点検 21
ブレーキライトの点検 21
燃料漏れの点検 22

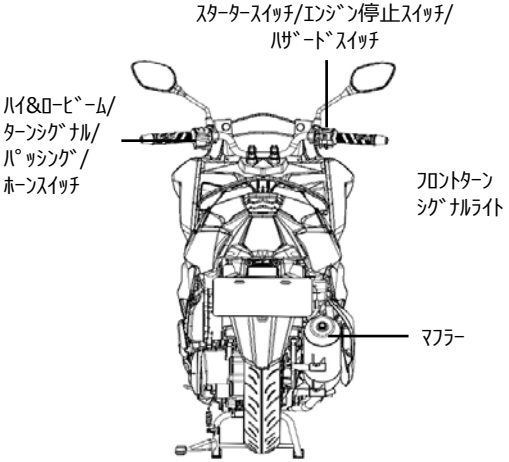
1. 目次

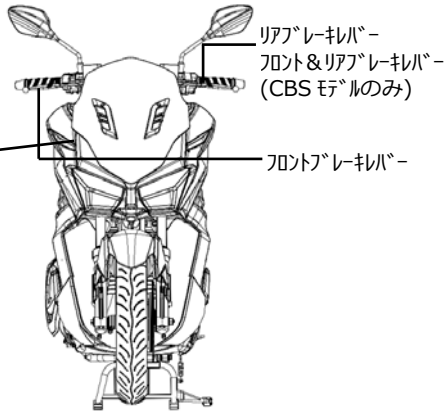
各部の潤滑点検 22
スパークプラグの点検 22
エアクリーナーの点検 22
10. トラブルシューティング 23
エンジンが始動しない時 23
11. 燃料について 23
12. トランスミッションオイル 23
13. スクーターに乗るときの注意点 24
14. 冷却システムの点検 25
15. 定期メンテナンススケジュール 27
16. 仕様諸元 28

2. 各部の名称


ｽﾄﾚｰｼﾞﾎﾞｯｸｽ
ﾌﾛﾝﾄﾗｲﾄ/
ﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾗｲﾄ
ｴｱｸﾘｰﾅｰ
ｻｲﾄﾞｽﾀﾝﾄﾞ
ﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞ
ｴﾝｼﾞﾝ番号


ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁ
VIN ﾅﾝﾊﾞｰ
燃料ﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟ
ﾃｰﾙ/
ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄ
ﾊﾞｯﾃﾘｰ


ｽﾀｰﾀｰｽｲｯﾁ/ｴﾝｼﾞﾝ停止ｽｲｯﾁ/
ﾊｻﾞｰﾄﾞｽｲｯﾁ
ﾊｲ&ﾛｰﾋﾞｰﾑ/
ﾀｰﾝｼｸﾞﾅﾙ/
ﾊﾟｯｼﾝｸﾞ/
ﾎｰﾝｽｲｯﾁ
ﾌﾛﾝﾄﾀｰﾝ
ｼｸﾞﾅﾙﾗｲﾄ
ﾏﾌﾗｰ


ﾘｱﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰ
ﾌﾛﾝﾄ＆ﾘｱﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰ
(CBS ﾓﾃﾞﾙのみ)
ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰ

3.お乗りになる前に

このマニュアルは、安全な乗り方や基本的な点検方法を含む、このスクーターの正しい使用方法について説明しています。
より快適で安全にお乗りいただくために、このマニュアルをよくお読みください。

より詳しくは SYM 正規販売店にお尋ねいただき、作業マニュアルをよくお読みになってください。
- オートバイの正しい使用方法
- 納車前点検とメンテナンス

この度は本製品をご購入いただきまして誠にありがとうございます。
ご購入いただきました車両を最良の状態でより長くご使用いただくためにも、定期的な点検やメンテナンスは必ず行うようにしてください。
ご購入後走行距離が 300km を越えましたら、販売店にお持ちいただき初回点検を受けていただき、その後は毎 1000km 走行ごとに点検を受けてください。

- このマニュアル内の仕様や図と、実際の車両のそれとが異なる場合がございますが、実際の車両の仕様が優先されます。

3. 安全運転

オートバイに乗るときは、交通の状況に常に目を配り焦らず気持ちに余裕をもって運転に適した服装で乗車することが大切です。
購入後はじめのうちは気をつけて運転していますが、慣れてくるに従って事故を起こしやすくなる傾向があります。引き続き安全運転に努めましょう。

忘れずに**:**
- オートバイに乗る際は必ずヘルメットを被り、顎ひもをしっかりと締めましょう。
- 袖口の広がっているものは、走行風にあおられてハンドルに引っ掛かるなど危険な場合がありますので着用を避けてください。
- 袖口の締まっているものを着用しましょう。
- 運転するときは両手でハンドルを持ち、絶対に片手運転はやめましょう。
- 制限速度を守りましょう。
- ヒールの高すぎる靴はやめましょう。
- **予定表に従い、正しく定期点検とメンテナンスを行ってください。**

警告!!
- マフラーの熱による火傷を防ぐため、同乗者を乗せる場合は必ずペダルに足を乗せるようにご注意ください。
- 走行後のマフラーは非常に熱くなっていますので、点検やメンテナンスを行う際は十分に気を付けましょう。
- 走行後のマフラーは非常に熱くなっていますので、通行人や周囲の人が火傷を負わないように安全な場所に駐車してください。

CAUTION:
車両の改造はオートバイの性能を下げるだけでなく、排気音量が上がったり、車両の寿命を短くする原因になります。
元の構造や仕様を変える車両の改造は違法行為です。
改造された車両は保証が適用されませんので、改造行為は行わないでください。

4. 運転

- **とっさの事態に対処できるように、腕や手、足といった四肢をリラックスさせ、正しい乗車姿勢で運転するようにしましょう。**
- 乗車姿勢は安全運転に大いに関係します。ライダーの重心がシートの後ろによりすぎると、フロント荷重が減りハンドル操作が不安定になり非常に危険です。ライダーの重心は、常にシートの中心にくるようにしましょう。
- カーブを曲がるときは、車両と同方向に身体を傾けると曲がり易くなります。同軸に傾いていないと不安定になりますので注意しましょう。
- 凸凹道や未舗装路、砂利道などではスピードを落とし、ハンドルをしっかりと支えながら走行するようにしましょう。
- 助言: ハンドルの操作を妨げ安全運転に支障をきたす恐れがありますので、足元に不必要な荷物を載せないようにしましょう。

⚠ 注意:

積載時と無積載時では、ライダーの感じるハンドル操作が微妙に変わってきます。
過積載はハンドル操作を不安定にさせ、安全運転に影響を及ぼしますので絶対にやめましょう。

⚠ 注意:

- 火災を起こす原因になりますので、布のような燃えやすいものをボディカバーをエンジンの間に挟まないでください。
- 定められた場所以外に物を載せないでください。

助言

オートバイの性能を最大限に引き出しより長くご使用いただくために:
初めの一ヶ月、または 1000km 走行までは慣らし運転期間です。
急激なアクセル操作を避け、できるだけ 60km/時以下で走行するようにしましょう。

5. 純正部品の使用

スクーターを最良の状態に保つためにも、各部品の品質や素材、精密機器製品には、必ず仕様に合ったものを使うようにしてください。" SYM 純正部品 " は、オリジナルの部品と同等に高品質で作られています。定められた流通経路、または指定販売店以外には出回っておりませんのでご注意ください。
" SYM 純正部品 " の購入は、必ず SYM 正規販売店にてお求めいただきますようお願いいたします。
安価な類似品を使用されますと、スクーターの性能を引き下げその寿命を縮めるのみならず、それによって起こった不具合には保証が適用されませんのでご注意ください。

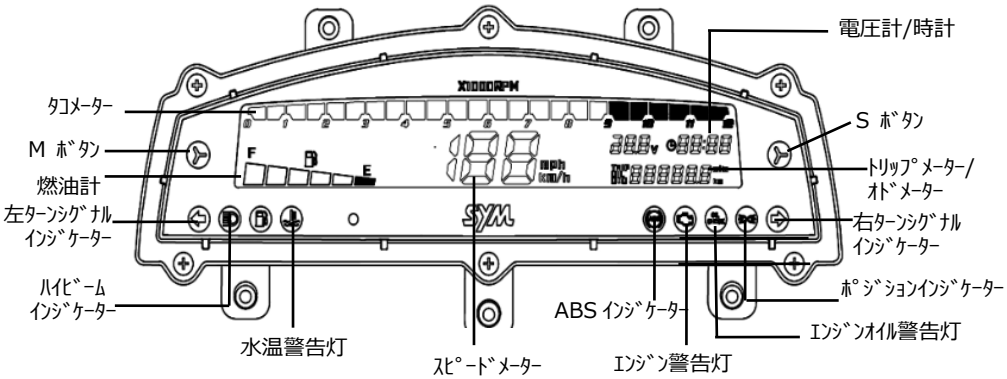
- あなたのスクーターを最良の状態に保つためにも、部品は " SYM 純正部品 " をご使用いただきますようお願いいたします。

6. 各部の使用方法

(以下は、SYM 4 ストローク空冷 125c.c./200c.c.スクーターの基本操作です。各モデルにより多少の差異がございます。詳しくは巻末をご覧ください。)

§ゲージ§

パネル上の表示は各モデルごとに多少の差異がございますが、表示位置は概ね同じです。



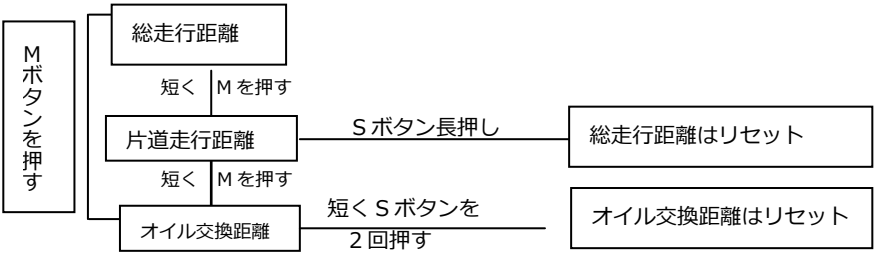
⚠ **注意:**

ダメージを与える恐れがありますので、メーターパネルやヘッドライトなどのプラスチック面をガソリンのような有機溶剤で拭かないでください。

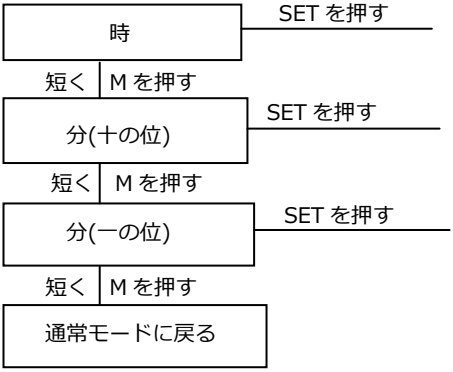
- **スピードメーター/タコメーター：**
  走行速度とエンジンの回転数を表します。
- **オドメーター:**
  総走行距離を表します。
- **トリップメーター:**
  区間走行距離を計測します。
  通常ディスプレイモードのときに、“ MODE” ボタンを１秒間押すと総走行距離を表示します。
  もう一度 “ MODE” ボタンを押すとトリップメーターディスプレイに切り替わります。トリップメーターディスプレイのときに "SET" ボタンを長押しすると、リセットすることができます。
- **ハイビームインジケーター：**
  ヘッドライトがハイビームのときに点灯します。
- **ターン (左/右) シグナルインジケーター：**
  ターンシグナルが点滅しているとき連動する方向のインジケーターも点滅します。
- **燃油計:**
  針は、タンク内の燃油残量を示します。
  メインキーがオフのときは、針は “ E” を指しています。
- **水温計(XH12WW-EU):**
  エンジン冷却水の温度を示します。インジケーターが点灯したら、冷却水の量やファンが回っているかを確認してください。

- **電圧計/時計:**
  バッテリーの電圧、または時計を示します。
  通常ディスプレイモードのときに "SET" ボタンを 0.5 秒押すと電圧または時計を表示することができます。
  スクーターを停止させ、時計ディスプレイモードのときに "MODE" ボタンを 2 秒以上押すと時計設定モードになります。ここで " MODE" ボタンを 1 秒間押すと設定モードに入ります(時→分の十の位→分の一の位)。
  短く "SET" ボタンを押すごとに数字が一つずつ加算されます。
  "MODE" ボタンを 2 秒以上長押しすることで、時計設定モードを終了することができます。
- **エンジン警告灯:**
  ECU(ｴﾝｼﾞﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾕﾆｯﾄ)に不具合が起こるとこの警告灯が点灯します。
- **エンジンオイル警告灯:**
  1000km 走行ごとに、ライトが点灯してエンジンオイル交換の時期であることを知らせます。
  オイルを交換した後、メインスイッチをオンにしてから "SET" ボタンを短く 2 回押して " OIL" モードにするとライトは消灯します。

走行距離設定



時計設定



§イグニッションスイッチの操作§

スマートキー(スイッチを押してからキーを抜きます)

ON ポジション
- この位置でエンジンを始動できます。
- キーを抜くことはできません。

OFF ポジション
- この位置ではエンジンは停止し、始動することはできません。
- キーを抜くことはできません。

キーレスタイプ
- インテリジェントロック装備のモデルもございます。
- インテリジェントロックが不具合で解除できない時は、キーを回して手動でロックを解除してください。

§ハンドルロックスイッチの操作§

ハンドルロック ポジション
- ハンドルを左に切ってキーを差し込み、時計回りに押し込んでから軽く左に回して LOCK の位置に合わせます。
- この位置でハンドルがロックされます。
- キーを抜くことができます。
- キーを LOCK の位置から OFF の位置に回せばロックは解除できます。

⚠ 注意:
- キーを入れたまま、シートを閉めてしまわないように気をつけましょう。

§シートオープンスイッチの操作§

OPEN
- キーをイグニッションスイッチに差し込み、左に回してシートを開けます。

⚠ 注意:
- 走行中は絶対にイグニッションスイッチの操作は行わないでください。イグニッションスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統システムは全てシャットダウンされて非常に危険です。イグニッションスイッチをオフにするときは必ずオートバイを停止させてからにしてください。
- オートバイから離れる際は、ハンドルロックをしてキーを抜き取るのを忘れないでください。
- エンジンを停止させたのちも長時間(長期間)キーを ON の位置にしたままにしておくと、バッテリーの消耗を招きエンジンがかかりにくくなる原因となりますので気をつけましょう。
- キーを入れたままシートをロックしてしまわないように気を付けましょう。

LED の点滅・点灯

状態	LED の状態
防御	1.5 秒毎に 4 回点滅、その後 5 秒後に消灯
解除	1 秒毎に一度点滅し、その後 5 秒後に消灯
ﾒｲﾝｽｲｯﾁ・ｵﾝ	5 秒間点灯しその後消灯
ｱﾗｰﾑ	ｱﾗｰﾑと共に点滅

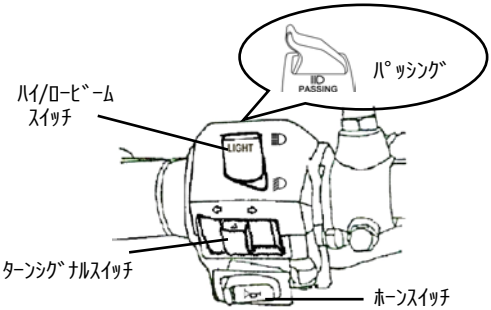
1.　諸元

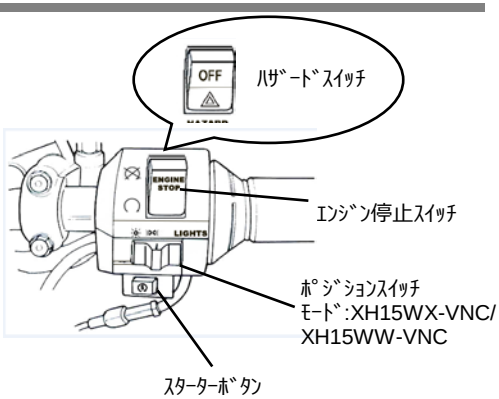
- 電圧: 12V
- 静電流: 平均値≤　3.5ma
- 動作電流: ≤　600A
- 変調方式: ASK
- リモコンの動作電圧: 3V
- ホーン音量: 90-115db
- 周波数: 433.92mhz

⚠ **注意：**

1. スペアキーを使用する際は、メインキーと一緒に使用しないようにしてください。
2. 車両を離れる前に、必ずメインスイッチを LOCK にしてください。
3. スペアキーのコード(アルミニウムプレート)はなくさないようにしてください。キーを紛失した際は、キーコードがあれば販売店にて新しいスペアキーをオーダーすることが可能です。キーを無くしてしまうと、エンジンをスタートできなくなります。
4. バッテリー容量≥　8ah.
5. 長期間車両に乗らない場合は、バッテリー接続を外して充電した状態にし、毎月点検するようにしましょう。
6. リモコンの電波が有効な距離は、20 メートル以内です。リモコンの電波が届く距離内では、不用意にリモコンに触れて施錠を解除しないように気を付けましょう。
7. リモコンが利きにくくなったり有効範囲が 10 メートル以内になったら、仕様に合った内蔵電池と交換しましょう。
8. 異常放電や電圧の低下につながりますので、仕様に合わない不必要な電装品は使用しないでください。
9. リモコンが直射日光や降雨にさらされないようにしてください。
10. 騒音や振動の多い環境下では、アラームが発動しやすくバッテリーの消耗が早まる可能性があります。
11. ご自身で分解したりダメージを与えても、保証は適用されませんのでご注意ください。

§ボタン類の操作§





- **スターターボタン**

エンジンを始動させるボタン(スイッチ)です。
メインスイッチをオンにして、フロントまたはリアブレーキレバーを握りながらこのボタンを押すとエンジンを始動させることができます。

> ⚠ **注意:**
> - エンジンへのダメージを防ぐために、エンジンがかかったら速やかにこのボタンから手を離し、再び押すようなことはしないでください。
> - 安全のため、フロントかリアブレーキレバーを引きながらでないとエンジンがかからない構造になっています。
> - スターターボタンを操作している最中はヘッドライトやターンシグナルライトといった電気系統をオフにし、使用しないでください。

- **ハイ/ロービームスイッチ**
  ヘッドライトのハイビームとロービームの切り替えスイッチです。
  ボタンを押して切り替えます。

ハイビームです。

ロービームです(市街地を走る際はロービームで走行しましょう)。

- **ハザードスイッチ**

エンジンがかかっているときにこのスイッチを押すと、フロントとリアのターンシグナルライトが点滅します。

- **エンジン停止スイッチ**

緊急時はこのスイッチを押してエンジンを停止させることができます。

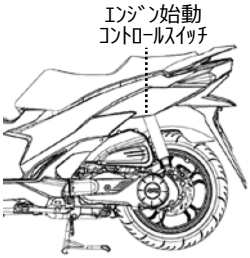
スイッチがこの位置になっていると、エンジンを始動させることができます。

- **パッシングスイッチ**

Passing イグニッションスイッチがオンの状態でこのスイッチを押します。するとヘッドライトが一瞬ハイビームになり、対向車などに警告を送ることができます（ハイビームインジケーターが点灯します）。ボタンは離すと元に戻り、ロービームになります。

- **エンジン始動コントロールスイッチ**

スイッチボタンはシート下にあります。
ON ポジション: この位置ではエンジンを始動させることはできません。
OFF ポジション: この位置で、イグニッションスイッチをオンにしフロントかリアブレーキレバーを握りながらスターターボタンを押すと、エンジンを始動させることができます。



- **ホーンスイッチ**

イグニッションスイッチがオンの状態で、このスイッチを押すとホーンが鳴ります。

- **ターンシグナルスイッチ**

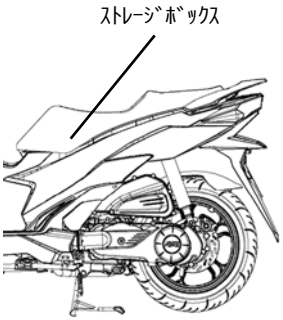
ターンシグナルライトは、右左折や車線変更の際に使用します。
イグニッションスイッチがオンの状態でこのスイッチを左右にスライドさせると、連動する左右のライトが点滅します。
ボタンを元の位置に戻せば、点滅は終了します。

左ターンシグナルライトが点滅します。

右ターンシグナルライトが点滅します。

§ストレージボックス§

- ボックスはシート下に付いています。
- 最大積載量:10kg.
- 貴重品等を入れないでください。
- シート(ボックスのフタ)を閉めるたら、必ずロックされたか確認するようにしましょう。
- 洗車の際は、濡れて困るような物は取り出しておきましょう。
- 庫内はエンジンの熱で熱くなりますので、熱に弱い物は入れないでください。



§ヘルメットホルダー§

- スクーターを停車させ、ヘルメットの顎ひもをフックにかけます。

⚠ **注意:**
- ヘルメットを損傷する恐れがありますので、絶対にヘルメットをフックにかけたまま走行しないでください。

§燃料タンクキャップ§

1.キーをシートの鍵穴に差し込んでシートを開けます。燃料タンクキャップを反時計回りに回してキャップを外します。
2.給油の際は、上限ラインを越えないように注意してください。
3.キャップの△マークを燃料タンクの△マークに合わせて時計回りに回転させてフタを閉め、シートを下げてロックさせます。

⚠ **注意:**

- エンジンを停止させてメインスタンドを地面に立てます。給油の際は、火気厳禁です。
- 上限ラインを越えて給油しないでください。燃料があふれ出ると、ボディの塗装にダメージを与えたり、最悪の場合車両火災を引き起こす危険性があります。
- 給油後はキャップが完全に閉まっていることを確認しましょう。

§ブレーキ§

右ブレーキレバーを引いてフロントブレーキが効いているか確認します。
左ブレーキレバーを引いて、フロントとリアブレーキが同時に効いているか、
確認します(CBSモデル)。

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。
- ブレーキをかけるときは、フロントとリアを同時にかけるようにしましょう。
- ブレーキがオーバーヒートを起こし効かなくなる恐れがありますので、長時間にわたる断続的なブレーキングには注意しましょう。
- 転倒のリスクを回避するために、雨天時の滑りやすい路面では早めのブレーキで減速することを心がけ、急ブレーキは出来る限りかけないようにしましょう。
- 制動荷重が偏り転倒のリスクが上がりますので、フロントまたはリアのブレーキだけをかけるのは避けましょう。
- カーブではタイヤがスリップする可能性があります。カーブを曲がるときはあらかじめ十分に減速して、安全なスピードで走行してください。
-

CBS モデル

フロント/リア　　フロント

《エンジンブレーキ》

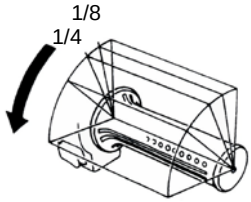
スロットルを戻すとエンジンブレーキがかかります。
長い坂道などを下るさいは エンジンブレーキも活用しながらフロント・リア両ブレーキと併用して走行してください。

エンジン始動時の重点事項と注意

⚠ 注意:

- エンジン始動の前には、必ずオイル類や燃料が十分か確認するようにしましょう。
- エンジン始動のさいは、オートバイが突然前方に動き出さないように、メインスタンドがしっかりと地面に立てられていることを確認し、リアブレーキをかけながらスターターボタンを押すようにしてください。

1.イグニッションスイッチキーをオンにします。
2.ハンド(またはフット)ブレーキを効かせます。
3.ブレーキをかけているときは、アクセルを開けたりスターターボタンを押さないでください。



［安全のために、走り出すまで必ずリアブレーキをかけておきましょう。］

⚠ 注意:

- スターターモーターへのダメージを防ぐために､スターターボタンは 15 秒以上押し続けないでください。
- スターターボタンを 15 回以上押してもエンジンがかからない場合は、10 秒ほどおいてから再度試すようにしてください。
- 長期間オートバイに乗らずにいたり、燃料タンクを空にしてしまったりした後は、エンジンがかかりにくくなります。そのような場合はスターターボタンを数回押したり、スロットルを少しだけ開けながらスターターボタンを押す必要があります。
- 気温が低い日は、数分の暖機運転が必要になる場合があります。
- 排気には有害なガス(CO)がふくまれます。エンジンを始動させる際は換気の良い場所でおこなってください。

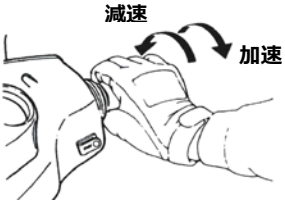
7. 正しい発進の仕方

- 発進する前に必ずターンシグナルライトを点滅させます。後方から他の車両が来ていないことを確認してから発進させます。

§スロットルの操作§

加速 ： スピードを上げます。上り坂を走行する際など、ゆっくりスロットルを開けてエンジンパワーを上げて走ります。

減速 ： スピードを落とします。



§駐車の仕方§

- **駐車スペースに近づいたら:**
  1. ターンシグナルライトを早めに点滅させます。車両の前後左右の安全を確認後、速やかに車線変更し道路の内側に車両を寄せます。
  2. スロットルを戻し、ブレーキをかけます(ブレーキライトで後続車に警告します)。

- **完全に停車したら:**
  3. ターンシグナルを押し戻して消灯させ、イグニッションスイッチキーをオフにしてエンジンを停止させます。
  4. 駐車させた場所が周囲の邪魔になっていないか、適切な場所に駐車できているかよく確認し車両の左側から降車します。安全を確認できたら、メインスタンドを立てて車両を安定させます。
  5. 左手でハンドルを持ち、右手でシートの前端か左下横のパーキングハンドルを持ちます。
  6. 右足でメインスタンドを押して下げ、地面にしっかりと立てて固定します。

忘れずに: 盗難を防ぐために、駐車させたのちはハンドルをロックし、キーを抜き取るのを忘れないようにしましょう。

⚠ **注意:**

- 交通や周囲の妨げにならないように、安全な場所に駐車させるようにしましょう。

8. 乗車前点検とメンテナンス

(以下の項目の場所については、各部の名称の図を参照してください)

§日常点検§

点検項目		点検のポイント
エンジンオイル		エンジンオイルは十分か?
燃料		残量は十分か? オクタン価90以上の無鉛ガソリンか ?
ブレーキ	フロント	ブレーキの状態は? (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
	リア	ブレーキの状態は? (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
タイヤ	フロント	空気圧は適切か? (適正値: 1.75kg/cm^2)
	リア	空気圧は適切か? (適正値: 2.0 kg/cm^2 1名乗車時, 2. 25 kg/cm^2 2名乗車時)
ハンドル		異常な振動はないか、左右に動かしにくくないか?
スピードメーター, ライト, ミラー		正常に機能しているか? ライトは点灯するか? 視認性は良いか?
主要部品の締結		ネジやナットは緩んでいないか?
修理(後)箇所		以前の補修箇所に異常はないか?

⚠ **注意:**

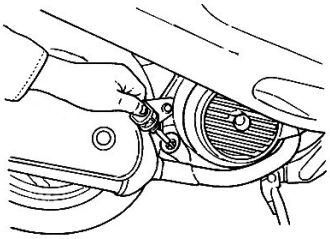
- 日常点検の際に異常が見つかった場合は、次にお乗りになる前に必ず修理を行い、必要に応じてお近くの SYM 正規販売店にお持ちいただいて確実に修理してからご乗車ください。

§エンジンオイルの点検と交換§

- **点検:**

1. メインスタンドを使用してスクーターを地面にしっかりと静置させます。エンジン停止後 3～5 分置いたのち、ディップスティックを外します。ディップスティックからオイルを拭き取り、再びガイドチューブに差し込みます(回しこまない)。
2. ディップスティックをもう一度外し、オイルレベルが上限と下限のラインの間にあるか確認します。

- 下限より減っていたら、上限ラインまでオイルを補充します(シリンダーやクランクケース等からの漏れがないか確認する)。



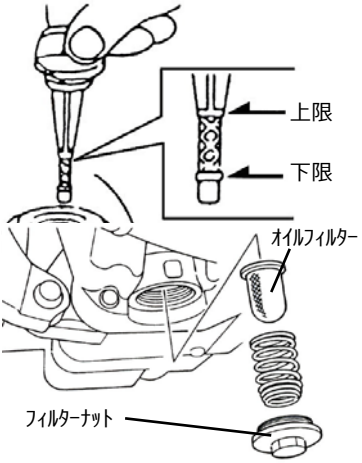
オイル交換:

- 初回 300km 走行後オイルを交換し、その後は 1000km ごとに交換を行ってください。
- エンジンを最良の状態に保つためにも、500km 走行ごとにオイル量の点検を行ってください。オイルが減っていたら上限ラインまで補充します。
- エンジンオイル ：(API) SJ MA10W-30 と同等またはそれ以上(推奨 USE SM 10W 50)これら以外のオイルの使用によって起こった不具合は保証の対象外です。

  ※推奨オイル: **"MOTUL"3100GOLD 10W40**
- オイル容量 ：1.00 リッター(日常点検時 0.80 リッター)
- 外気温が 0℃以下の場合は SAE 5W-40 を使用。

【オイルフィルター清掃】

エレメントのオイルフィルターナットを取って、エレメントを外します。ガソリンやエアガンなどを使用してエレメントから異物を取り除きます。



⚠ 警告:

- エンジン停止直後や平坦でない場所では、正しいオイルレベルは計測できません。
- 走行直後のエンジンや排気管は非常に熱くなっています。オイルの点検や交換を行うときは、火傷を負わないように十分注意してください。
- 交換や補充をしてもすぐにオイル量が減ってしまう場合は、オイル漏れがないか確認してください。
- オイルを交換する際は、火花や炎から遠ざけて行うようにしましょう。

乳化を防ぐために

- 定期的にエンジンの暖機運転を行う。
- ひと月に最低でも 10km は必ず走行する。
- 3 ヶ月ごと、または 1000km 走行するごとにオイル交換を行う。

§燃料の点検§

- メインスイッチキーをオンにして、燃油ゲージの針が十分な量を示しているか確認します。
- このスクーターのエンジンは、オクタン価 90 以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- メインスタンドをしっかりと地面に立ててエンジンを停止させ、火気から遠ざけた場所で給油を行います。
- 上限ライン以上に給油しないようにしてください。
- 給油後はキャップがしっかり閉まっているか必ず確認してください。

§トランスミッションオイルの点検と交換§

点検:

- スクーターを平坦な場所にメインスタンドで静置させ、エンジン停止後 3～5 分置きます。
  オイル注入ボルトを外し、計量容器をドレンボルトの下に置いてからドレンボルトを外します。
  オイルを計量容器に排出させ、オイル量を確認します(分解時:190c.c./交換時:180c.c.)。

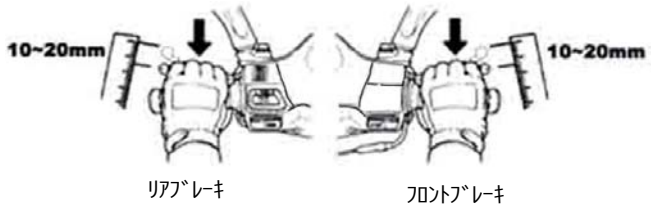
オイル交換:

- エンジンを停止してメインスタンドでスクーターを平坦な場所に静置させ 3～5 分置きます。
  注入ボルトとドレンボルトを外してオイルを排出させます。
- ドレンボルトを再びしっかり取り付けて締めて新しいトランスミッションオイルを入れ、(180c.c.)
  注入ボルトを取り付けて締結します(ボルトがしっかり閉まっているか確認し、液漏れがないか確かめます)。
- 推奨オイル: **"MOTUL"3100GOLD 10W40**

§ブレーキの遊びの点検と調整§

点検: (ブレーキレバーの遊びは、必ずエンジンが停止しているときに行ってください)

- フロント/リアブレーキレバーの遊び。
  - ◆左右(フロント/リア)のブレーキレバーの遊びは、概ね 10～20mm です。レバーを引いたときに(遊びの部分で)スポンジを握っているような感覚があるときは異常を示しています。



§ディスクブレーキの点検§(ディスクブレーキ装着車のみ)

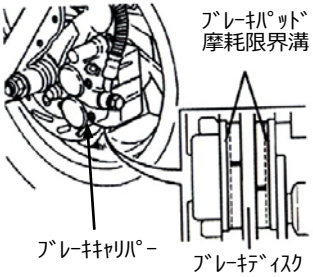
（漏れ、損傷、緩みはないか）

• ブレーキラインからの漏れや損傷がないか目視で確認します。ライン上の接続部分の緩みなどを、レンチや同等の工具で点検します。走行時のハンドルからの振動などが、ブレーキラインにダメージを与えていないか点検し、問題が見つかった場合は SYM 正規販売店にて修理を行ってください。

> ⚠ **注意:**
> - P 最良の状態で安全にお乗りいただくためにも、平坦で乾いた路面の道路をゆっくり走行しながら、フロントとリアブレーキをかけてみて、正常であるか、異常はないかを確かめてみることをお勧めします。

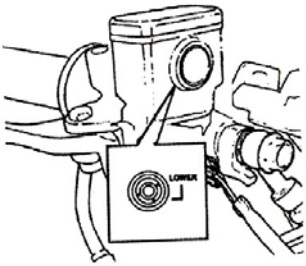
(フロントブレーキライニング)

- ブレーキキャリパーの裏側から確認します。ブレーキパッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクに届いていたら、速やかに新しいブレーキパッドと交換してください。



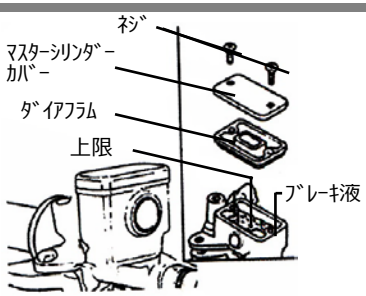
(ブレーキオイルリザーバーのオイル量点検)

- 平らな場所にスクーターを止めて、液レベルが下限マークより減っていないか確認します。
  推奨ブレーキ液: DOT 3



(フロントブレーキ液の補充)

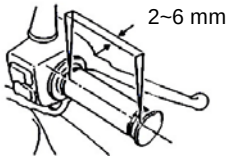
1.ネジを緩めてマスターシリンダーカバーを外します。
2.リザーバー周りの汚れや異物が庫内に入り込まないように、注意しながら綺麗に拭き取ります。
3.ダイアフラムプレートとダイアフラムを外します。
4.上限までブレーキ液を加えます。
5.ダイアフラムプレートとダイアフラムを取り付け、マスターシリンダーカバーを被せます。
6.ダイアフラムの取り付け方向に留意し、異物が庫内に入らないように注意してください。マスターシリンダーカバーが確実に閉まっていることを確認します。



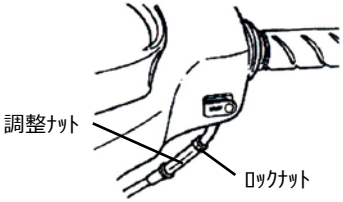
⚠ 注意:
- 化学反応による品質劣化を防ぐため、推奨ブレーキ液以外は使用しないでください。
- プラスチック部分にダメージを与える恐れがありますので、液の補充時は上限を越えて溢れないように注意してください。

§スロットルの遊びの調整§

- 適切な遊びは概ね 2～6mm です。
- はじめにロックナットを緩めてから、調整ナットを回して調整します。調整後はロックナットをしっかりと締めてください。



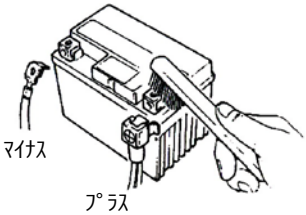
点検項目:
1.スロットルを前後に大きく動かして、ケーブルがスムーズに動いているか目視で確認します。
2.ハンドルを左右に大きく動かして、スロットルケーブルが干渉していないか確認します。
3.スロットルケーブルと他のケーブルが干渉し合って互いの動きを妨げていないか確認します。



§バッテリーの点検とメンテナンス§

- このスクーターはメンテナンスフリーバッテリーを搭載していますので、電解液の点検や補充の必要はありません。不具合が生じた場合は、お近くの SYM 正規販売店にお尋ねください。

(バッテリー電極の清掃)
- 電極を外し、汚れや付着物があれば清掃します。
- バッテリー取り外しの手順は以下です:
  イグニッションスイッチをオフにして、最初にマイナス極のネジを緩めてケーブルを外します。それからプラス極のネジを緩めてケーブルを外します。



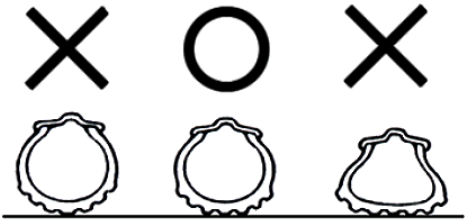
⚠ 注意:
- バッテリー端子に付着した白い粉や堆積物は、お湯できれいに取り除きます。
- 電極の腐食がひどく、付着物が固まっているような場合は、スチールブラシやサンドペーパーで削

⚠ **注意:**

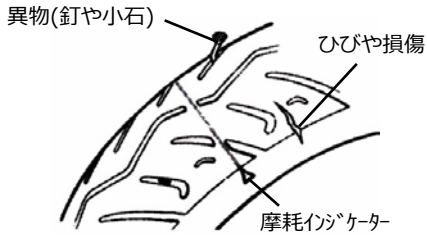
- このバッテリーは密閉タイプです。キャップは決して取り外さないでください。
- バッテリーの漏電や放電を防ぐために、長期間お乗りにならない場合はバッテリーを取り外してください。充電したのち、換気の良い薄暗い場所に保存しましょう。バッテリーを車両から取り外せない場合は、マイナス極だけでも外しておいてください。
- バッテリーの交換が必要な時は、同タイプの密閉式メンテナンスフリーバッテリーと交換してください。

§タイヤの点検§

- タイヤの点検や空気圧調整は、エンジンを停止させて行ってください。
- 下図のようなタイヤの形状が見られる場合は、適正値を参考にして空気圧調節を行ってください。
- 空気圧調節は、タイヤが冷えているときにエアプレッシャーゲージを使用して行ってください。



仕様諸元の適正タイヤ空気圧推奨値を参照してください



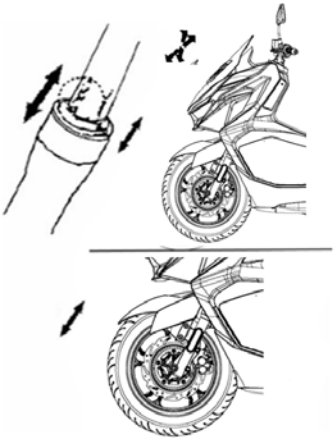
- タイヤを正面からと横から目視して、ひびや損傷がないか確認します。
- 釘や小石が溝に刺さったり挟まっていないか目視で確認します。
- 摩耗インジケーターを目視して、溝の深さが十分か確認します。
- 摩耗インジケーターにバーが見えており摩耗が進んでいたら、速やかに新しいタイヤと交換しましょう。

⚠ 注意:

- 空気圧の低下や摩耗、ひびなどは、最もハンドルのコントロール性を失わせたりタイヤがパンクする原因となりやすいので注意しましょう。

§フロントショックアブソーバーの点検§

- この点検は、エンジンを停止させイグニッションキーを抜いてから行ってください。
- ダメージがないか目視で確認します。
- ハンドルを上下させて、フロントショックアブソーバーから異音はしないか確認する。
- レンチを利用して、ショックアブソーバーのボルトやナットの緩みはないか確認します。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺すり、動きに偏りがないか点検します。
- ハンドルがブレーキケーブルに引っ張られすぎていないか確かめます。
- 異常が見つかったり調整が必要なときは、お近くの SYM 正規販売店にお持ち頂き、調整・修理を行ってください。

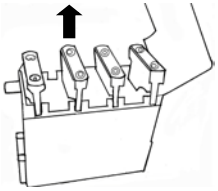


§ヒューズの点検と交換§

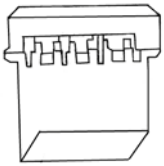
イグニッションスイッチをオフにして、ヒューズが切れていないか点検します。ヒューズが飛んでいたら仕様に合った新しい、同じアンペアのものと交換します(10A/15A*2/20A)。アンペアが仕様より高いものや(10A/15A*2/20A)、真鍮や鉄製のワイヤーなどの代用品を使用するのはシステムや回路にダメージを与える恐れがありますので絶対にしないでください。

- ストレージボックスを取り外すと、バッテリーの近くにヒューズホルダーがあります。
- ヒューズボックスカバーを開け、ヒューズを引き出します。ダメージや損傷がないか確認します。
- 交換時は、ワイヤーコネクターでヒューズをしっかり固定してください。接続が緩いと、過負荷となりヒューズがダメージを負う原因になります。
- 例えば電球などの電装品などは、必ず仕様に合ったものを使うようにしてください。仕様に合わないものを使用すると、ヒューズが飛んだりバッテリーの過放電を引き起こす原因となります。
- 洗車時、水がかかったり入り込まないように十分注意してください。
- ヒューズを交換してもすぐにまた飛んでしまうときは、必ず原因を確かめてから再交換してください。原因がわからない場合は、お近くの SYM 正規販売店までお尋ねください。

【取り外し】



【取り付け】



§ターンシグナルライトとホーンの点検§

- イグニッションスイッチキーをオンにします。
- ターンシグナルライトスイッチを入れ、前後、左右のシグナルライトが点滅し、同時に警告ブザー音も鳴っているか確認します。
- ターンシグナルライトのカバーが汚れていたり、ひび、緩みがないか確認します。
- ホーンボタンを押して、ホーンが鳴ることを確認します。

⚠ 注意:

- 正常な機能を保つためにも、ターンシグナルライトのバルブは必ず仕様に合ったものを交換してください。
- 車線変更や右左折の際は、後続車に知らせるために早めにターンシグナルを点滅させるようにしましょう。
- 後続車に誤解を与えないよう、車線変更や右左折後は速やかにボタンを押して点滅を終了させましょう。

§フロントとリアのライト点検§

- エンジンを始動させヘッドライトスイッチをオンにします。ヘッドライトとリアライトが点灯しているか確認してください。
- ヘッドライトを壁に照射し、明るさと方向が適切かどうか確かめます。
- ライトのカバーに、泥やひび、緩みがないか点検します。

§ブレーキライトの点検§

- イグニッションスイッチキーをオンにして、手元のフロント・リアブレーキレバーを引いてライトが点灯するか確認します。
- ブレーキライトのカバーに、泥やひび、緩みがないか点検します。

⚠ 注意:

- バッテリーの過放電やバルブの球切れの原因となりますので、仕様に合わない電球の使用はおやめください。
- 電装系統の改造や増設は、過負荷や回路がショートする可能性があり車両火災につながる恐れがありますので、絶対にしないでください。

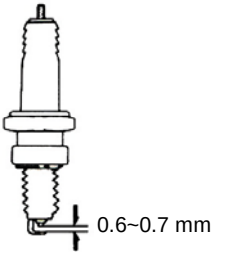
§燃料漏れの点検§

- 燃料タンク、燃油カップ、燃油ホース、キャブレター(あれば)に漏れがないか点検します。

§各部の潤滑点検§

- ボディの要所要所の潤滑は十分か点検します。
  (例えばメインスタンドやサイドスタンドの回転部分、ブレーキレバーなど)

§スパークプラグの点検§



- スパークプラグケーブルのキャップを外します(工具箱にあるスパークプラグレンチを使用してください)。
- 電極に汚れやカーボン付着物がないか確認します。
- スチールワイヤーで電極に付着したカーボンを取り除き、ガソリンでスパークプラグを綺麗にします。最後に乾いた布で拭きとります。
- 電極のギャップは 0.6~0.7mm です(フィーラーゲージを使用して計測)。
- 最初に手取り付けてから、レンチでさらにしっかりと締めつけます(1/23/4)。

⚠ 警告:

走行後のエンジンは非常に熱くなっています。火傷には十分注意しましょう。
※必ず仕様に合ったスパークプラグと交換してください(仕様諸元を参照のこと)。

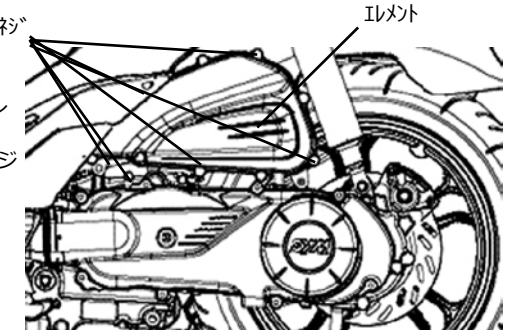
§エアクリーナーの点検§

《分解手順》

1. クリーナーカバーのタッピンねじを外します。
2. カバーを取り、エレメントネジを外してフィルターエレメントを取り出します。
3. 取り外したエレメントを清掃します(メンテナンススケジュールを参照のこと)。

《取り付け手順》

- 分解手順と逆の作業を行います。

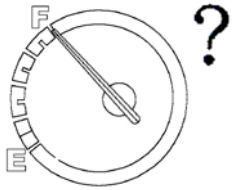


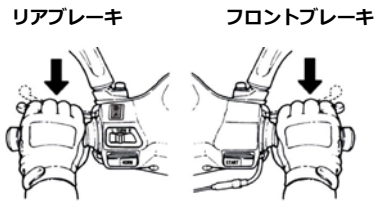
⚠ 注意:

- 埃の堆積は、馬力の低下や燃費の低下を招く大きな原因となります。
- 車両の寿命を縮めないためにも、埃っぽい路面を走行することが多い場合は、頻繁に点検・交換を行ってください。
- エアクリーナーの取り付け方が不十分だとシリンダー内に埃が入り込み、エンジン出力を弱めたりエンジンの寿命を縮める原因になります。
- エンジンがかかりにくくなりますので、洗車の際はエアクリーナーが水に浸からないように注意してください。

9. トラブルシューティング

§エンジンが始動しない時§

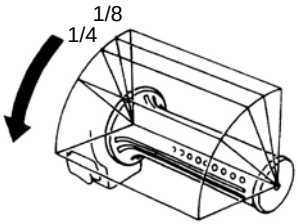


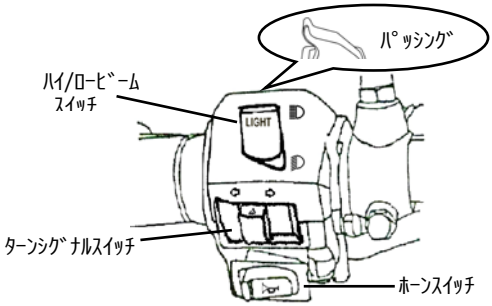


(1). イグニッションスイッチキーはオンになっていますか？

(2). 燃料は十分タンクに入っていますか？

(3). スターターボタンを押す時は、フロントかリアのブレーキレバーを引いていますか？





(4). スターターボタンを押しながらスロットルを少し開けていますか？

(5). イグニッションスイッチをオンにしてホーンボタンを押し、もしホーンが鳴らなければヒューズ切れの可能性があります。

【上記のどれにも起因しない不具合の場合は、速やかにお近くの SYM 正規販売店にて車両の点検・修理を行ってください】

10. 燃料について

- このスクーターはオクタン価 90 以上の無鉛ガソリンを使用するよう設計されています。
- 標高の高い場所で使用する場合は(気圧の低い場所)、エンジンのパフォーマンスを上げるために、混合比の調整が必要な場合があります。

11. トランスミッションオイル

- 推奨オイル: **"MOTUL"3100GOLD 10W40**

12. スクーターに乗るときの注意点

1. メインスタンドでスクーターを立てて、シートに腰掛けます。
   そのままスクーターを前方に押してメインスタンドをはらいます。

> ⚠ **注意:**
> - 走り出す前にエンジンの回転数をむやみに上げることは絶対にしないでください。

2. スクーターの左側から乗り、シートに正しく座ってください。右足をしっかりと地面に着けて、車両が倒れないようにしましょう。

> ⚠ **注意:**
> - 走り出すまで、しっかりとリアブレーキをかけておきましょう。

3. スロットルをゆっくり開けて、スクーターを動かします。

> ⚠ **注意:**
> - 急にスロットルを開けたり、クラッチをいきなりつないだりすると、オートバイが突然前に飛び出し非常に危険です。
> - 走り出す前に、サイドスタンドをはらうのを忘れないようにしてください。

【急ブレーキや急旋回はやめましょう】

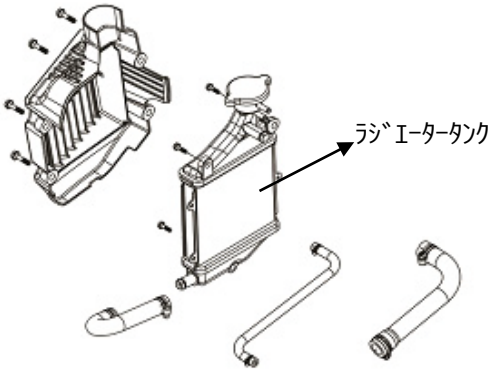
- スリップや転倒の恐れがありますので、急ブレーキや急旋回はやめましょう。
- 雨天時の濡れた路面では、特に転倒のリスクが上がります。急ブレーキや急旋回はやめましょう。

【雨天時は特に注意して運転しましょう】

- 雨の日や濡れた路面では、乾いた路面に比べて制動距離が伸びます。あらかじめ十分に減速し、早めのソフトブレーキを心がけましょう。
- 坂道を下るときはスロットルを戻し、スピードを落としながらゆっくりと走りましょう。

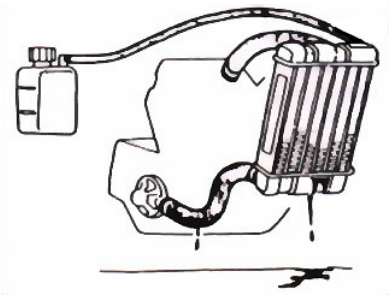
冷却システムの点検

(冷却システムに漏れはないか点検)
1. メインスタンドで平坦な路面に車両を静置します。
2. ラジエーターやパイプ類の液漏れを点検します。
3. 車両を駐車させていた地面に液漏れの跡がないか確認します。



クーラント液の交換

- 車両を地面にまっすぐ静置します。
- タンクカバーを開けます。
- リザーブタンクカバーを開けて、
  クーラント液を補充します。
- クーラント液がすぐに減ってしまう時は、
  システム内に不具合があることを示します。
- ラジエーターが錆びつくのを防ぐために、
  指定以外の無名ブランドのクーラント液は、
  絶対に使用しないでください。



薬品濃度: 50%
ラジエータータンククーラント液容量:430ml;
リザーブタンククーラント液容量: 75-150ml.

⚠ **注意:**

- クーラント液を混合するときは、軟水を使用してください。
- 質の良くないクーラント液は、ラジエーターの寿命を縮めるので、使用しないでください。
- 通常、一年に一回は必ずクーラント液を交換してください。
- リザーブタンクにクーラント液を補充してください。
- クーラント液がボディの塗装表面に触れないように気を付けましょう。
- システムをメンテナンスしたあとに、液漏れがないか必ず確認しましょう。
- クーラント液で火傷をする可能性がありますので、エンジンが温まっているときはラジエーターカバーを開けないでください。点検や交換をするときはエンジンが冷えてから行いましょう。
- 外気温が低い場合の液濃度や液温度の相関図は以下を参照してください。

異なる外気温下での不凍液濃度の参照表

- 異なる氷点下での適切な不凍液濃度は、以下をご参照ください:

不凍液濃度(%)	気温(氷点下)	注記
20%	-8	SYM では、工場出荷前に全てのｽｸｰﾀｰの不凍液濃度を 50%に設定して出荷しています。
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

- マニュアルで指定している不凍液が入手できない場合、同等以上の品質の不凍液を使用してください。
- 厳しい寒冷気候下では、ラジエーターのメインテナンス間隔をこまめに行うようにしてください。

15.定期メンテナンススケジュール

項目	走行距離 / 項目の確認 / メインテナンス間隔	300KM	毎 1000KM	毎 3000KM	毎 6000KM	毎 12000KM	備考
		初回	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	
1	エアクリーナーエレメント(備考)	I	C		R(紙)	R(スポンジ)	
2	エアクリーナー	I					
3	オイルフィルター(スクリーン)	C			C		
4	エンジンオイル	R	I	3000KM毎の交換			
5	燃料ポンプフィルター	I	10000KMごとに交換				
6	タイヤ、空気圧	I	I				
7	バッテリー	I	I				
8	スパークプラグ	I		I		R	
9	キャブレター(アイドルスピード)	I			I		
10	ステアリングベアリングとハンドル	I		I			
11	変速機のオイル漏れ点検	I	I				
12	クランクケースのオイル漏れ点検	I	I				
13	トランスミッションオイル	R	5000KMまたは5ヶ月ごとに交換				
14	ドライブベルト/ローラー				I	R	
15	燃料タンクスイッチとライン	I		I			
16	スロットル操作およびケーブル	I	I				
17	エンジンボルトとナット	I		I			
18	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン				I		
19	排気システム/カーボンの清掃				I		
20	カムチェーン/点火タイミング	I		I			
21	バルブクリアランス	I			I		
22	ショックアブソーバー	I			I		
23	フロント/リアサスペンション	I			I		
24	ショックテンションロッド		10000KM毎に点検、30000KM毎に交換				
25	メイン/サイドスタンド	I			I/L		
26	クランクケースブローバイシステム(PCV)	I		I			
27	クラッチディスク				I		
28	ブレーキ機構/ブレーキライニング(パッド)	I	I				
29	各コンポーネントのボルト/ナット	I	I				
30	冷却液		I	I		R	

☆このメインテナンススケジュールは、毎月 1000km の走行を前提とし、そのどちらか早い方で行うよう設計されています。
※お手元の車両最高の状態でお使いいただけるよう、定期的にお買い求めの SYM 正規販売店にお持ちになり、点検とメインテナンスを実行してください。

コード:I ～検査、清掃、調整 R ～ 交換　　C~清掃(必要に応じて交換) L~潤滑

備考: 1. 車両を埃っぽく、あるいは空気の汚染された環境下で使用する場合、エアクリーナーエレメントの清掃、交換はより頻繁に行ってください。

1. 車輛を頻繁に高速で使用し、また距離が延びるような場合、メインテナンスはより頻繁に行う必要があります。

【備考内のメモは、該当するモデルを示すために使用されます。】

16. 仕様諸元

項目 ＼ モデル / 仕様	XH12WW-EU
全長	2000±20 mm
全幅	760±10 mm
全高	1115±20mm
軸距（ホイールベース）	1350±20mm
車両重量	140±5kg(front 57±2kg　rear 83±3kg)
エンジン	強制空冷/強制潤滑式　4サイクル単気筒
燃料仕様	無鉛 ガソリン
圧縮率	12.7±0.2 :1
最高出力	8.4kw/8500 rpm
最大トルク	11.0N.m/6500 rpm
バルブクリアランス:吸気/排気	0.12/0.12 mm
始動方式	エレクトリカル スターター
フロントショックアブソーバー	テレスコピックフォーク
リアショックアブソーバー	ダブルスイング
変速方式	C.V.T.
フロントタイヤ	100/90-14　51P
リアタイヤ	110/80-14　59S
リムタイプ	アルミニウム
タイヤ空気圧	フロント: 標準 /2.00kg/cm^2, リア: 標準 2.00kg/cm^2 （1名乗車時) / 2.25kg/cm^2 （2名乗車時)
フロントブレーキ	ディスク
リアブレーキ	ディスク
ヘッドライト	12V 35.7W/ 21.2W *1
ポジションランプ	12V 2.5W
テールライト/ストップライト	12V 1.3W /8.5W
ターンシグナルライトフロント/リア	12V 2.22W*2/ 12V 2W*2
エンジンオイル容量	1.00 L (交換時 0.80 L)
トランスミッション オイル 容量	180c.c （交換時 170c.c)
燃料タンク容量	7.5±0.2L
ヒューズ	10A*1&15A*2&20A*1
スパークプラグ	CPR8EA-9
バッテリー容量	12V 8Ah
エアクリーナー	乾式（ペーパータイプ）